

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

特別支援教育専攻

記載責任者

八幡 ゆかり

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

## 1. 目標・計画

過去5年間分析:平成20年度～23年度において、現職教員数は、平均5名で、学校現場のニーズの高さがうかがわれた。長期履修学生(3年制:L)についても、受験者平均8名、入学者3～7名と特に直近の2年は増加傾向である。ストレートの修士課程の学生(M)については、受験者数1～13名であり、直近の2年は入学者1、2名と減少が著しい。従来の方策に加えてM世代がアクセスしやすい方法を考慮する。

目標:大学院、特にMの増加、定員充足を目指す。

具体的方策

- 1) 特別支援教育事例検討会などの関係資料に本学の大学院案内、研究成果情報を掲載する。
- 2) 発達障害シンポジウム・公開講座・講演会等の機会に、本学の大学院案内を行う。
- 3) 各都道府県他大学の教育・心理・保健・福祉関係分野の指導教員宛にレター訪問し、本学の受験案内を20件以上送る。
- 4) 教育委員会の特別支援教育担当部署に本学の受験案内を50件以上送付する。
- 5) 各大学に直接出向き、知っている教員をとおして特別支援教育専攻への受験を依頼する。

## 2. 点検・評価

23年度については、6名増加した。現職教員の増加と、長期履修生の増加が多くなっている。下記の計画については実施され、特に現職教員の派遣については、効果的であった。

- 1) 特別支援教育事例検討会などの関係資料に本学の大学院案内、研究成果情報を行った。
- 2) 発達障害シンポジウム・公開講座・講演会等の機会に、本学の大学院案内を行った。
- 3) 各都道府県他大学の教育・心理・保健・福祉関係分野の指導教員宛にレター訪問し、本学の受験案内を20件以上送った。
- 4) 教育委員会の特別支援教育担当部署に本学の受験案内を50件以上送付した。
- 5) 各大学に直接出向き、知っている教員をとおして特別支援教育専攻への受験協力を依頼した。
- 6) 大学院入学に関する個別の相談には、メール等、または入試課と相談することで、丁寧に対応し、研究室訪問も推奨し、特別支援教育のPRに努めた。
- 7) 各教員が、講師依頼、その他イベントなどあらゆる機会をとらえて、教育現場のニーズに応じ、特別支援教育のPRに努めた。
- 8) 他県在住の修了生へはメール等で連絡し、PRを依頼した。

## I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。

貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

## 1. 目標・計画

本専攻では、学部学生や修士課程の学生に関して専攻会議等とおして教員間で情報交換を行ってきた。それらの内容を分析した結果、学部生と現職教員、L、Mと多様な背景、目的の院生が存在していることが判明した。

目標：個々の学生のニーズに応じた支援を行い、学生の卒業時・修了時における「質」の保証をする。

具体的方策

- 1) 多くの学生・院生の目的の一つに特別支援教育免許の取得があり、実習などハードなため、スムーズに取得できるよう、細かく相談支援する。
- 2) 多方面にわたる専門性の異なる研究内容であるので、専門性を活かした卒業論文や修士論文の指導を行う。
- 3) 卒業生、特に修了生の進路情報を把握し、分析しフィードバックすることにより、質の保証を支援する。

## 2. 点検・評価

近年、学生および院生のニーズや、実態が多様化しており、対応支援に苦慮することが多くなってきた。

そこで、学生の教育・学生生活上の相談に対して、専攻教員全員で対応できる支援体制を敷き、会議などで協議をしながら方針を決めて、担当者が個別に対応支援を行った。

目標：個々の学生のニーズに応じた支援を行い、学生の卒業時・修了時における「質」の保証をする。

具体的方策

- 1) 多くの学生・院生の目的の一つに特別支援教育免許の取得があり、実習などハードなため、スムーズに取得できるよう、カリキュラムについての指導を入念に行うと共に、教員全体で協力して細かく相談支援した。
- 2) 多方面にわたる専門性の異なる研究内容であるので、教育分野、心理分野、医学分野などそれぞれ専門性を活かした卒業論文や修士論文の指導を行った。
- 3) 卒業生、特に修了生の進路情報を把握し、分析しフィードバックすることにより、質の保証を支援した。
- 4) 単位取得困難が予測される学生に対して、担当教員を中心に、本人の実態に配慮しつつ、単位取得について支援した。
- 5) 学部・院生の教育実習において担当者及び教員全体で、実習校や関係機関と連携を取りながら、きめ細かい支援を行った。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

目標：学生の教育・学生生活上の相談に対して、専攻教員全員で対応できる支援体制を敷く。

具体的方策

- 1) カリキュラムについての指導を入念に行うと共に、教員全体で協力して履修上のアドバイスや進路指導を随時行う。また専攻会議で常に学生についての情報を交換し、教員全員が情報を共有できるように努める。
- 2) 学生・院生に対する教育面・研究面での支援の充実のために、教材・教具・研究用機器・機材の貸与等できめの細かいサービスが提供できるように、教育研究補助のための便宜を図る。
- 3) 学部生と院生が合同で歓迎会を行う等、学生相互間、及び教員－学生相互間の親睦を深めることに努める。

#### 2. 点検・評価

学生の教育・学生生活上の相談に対して、専攻教員全員で対応できる支援体制を敷き、専攻会議などで情報を共有化し、協議をしながら取り組んだ。

具体的方策

- 1) カリキュラムについての指導を入念に行うと共に、教員全体で協力して履修上のアドバイスや進路指導を随時行った。また専攻会議で常に学生についての情報を交換し、教員全員が情報を共有できるように努めた。その結果、全員卒業、及び修了が成就した。
- 2) 学生・院生に対する教育面・研究面での支援の充実のために、教材・教具・研究用機器・機材の貸与等できめの細かいサービスが提供できるように、教育研究補助のための便宜を図った。
- 3) 学部生と院生が合同で歓迎会を行う等、学生相互間、及び教員－学生相互間の親睦を深めることに努めた。
- 4) 学生からのニーズを把握し、プリンター、椅子などの機器の整備などを行った。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

目標：専攻教員全員の研究活動の活性化を図り、高度な専門性の維持・向上を図る。

具体的方策

- 1) 専攻の教員が協力し、科学研究費補助金をはじめとした外部資金の獲得に努める。
- 2) 卒業論文や修士論文のテーマを教員が協力して指導し、学会や雑誌に共同で研究発表できるようにする。
- 3) 専攻が中心となり、附属特別支援学校との連携に加え、公立諸学校との連携、保健・福祉・医療機関との連携を密にし、県内の特別支援教育の要として広範な研究・実践活動を展開する。

## 2. 点検・評価

専攻教員全員の研究活動の活性化を図り、高度な専門性の維持・向上を図った。地域社会や学校現場との連携に努め、実践性、専門性の高い研究を志向した。

具体的方策

- 1) 専攻の教員が協力し、科学研究費補助金をはじめとした外部資金の獲得に努め、教育研究プロジェクト1件、科研費についても1件獲得した。
- 2) 卒業論文や修士論文のテーマを教員が協力して指導し、学会や雑誌に共同で研究発表した。また、学会へ論文投稿も行い、若干本採択された。
- 3) 専攻が中心となり、附属特別支援学校との連携に加え、公立諸学校との連携、保健・福祉・医療機関との連携を密にし、県内の特別支援教育の要として広範な研究・実践活動を展開した。
- 4) ここ数年「発達障害シンポジウム」「徳島特別支援教育事例検討会」などの全県的なイベントを実施しており、特別支援教育に関して、教育研究の専門機関として実績を上げてきた。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

目標:委員として各種委員会や会議において職務を遂行するとともに、免許状更新講習等を通じて大学運営に寄与する。また徳島県教育委員会との連携協力のため、県の要請に応じた研究生の受け入れ、研究指導を行う。

具体的方策

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画する。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(新、専門部会、ワーキングなど)に出席し、積極的に会の運営に携わる。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努める。

## 2. 点検・評価

委員として各種委員会や会議において職務を遂行するとともに、免許状更新講習等を通じて大学運営に寄与した。また徳島県教育委員会との連携協力のため、県の要請に応じ研究生を受け入れ、その研究指導を行った。

具体的方策

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画した。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(新、専門部会、ワーキングなど)に出席し、積極的に会の運営に携わった。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努めた。教育現場からのニーズに応じて、それぞれの専門性を活かし、講習内容に反映させた。
- 4) 徳島県教育委員会からの要請に応じて半年間の研修生2名を受け入れ、教育現場での特別支援教育ニーズの高まりへの対応に教育研究の領域からボランティア的に研究指導を実施し、実践的研究を支援するとともに、県教育委員会との連携協力関係に寄与してきた。
- 5) オープンキャンパスにおいて、多数の参加者を受け入れ、先輩の声(学部3年生)として、実体験に基づいた大学生活や、学習について情報提供し、大変好評であった。

## II-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

附属学校との連携

目標:附属特別支援学校との教育・研究面での連携を強化させる。

具体的方策

- 1) 附属特別支援学校の研究テーマについて、専攻教員が関わり、協働研究を推進する。
- 2) 教育実習などの附属特別支援学校の教育について、専攻教員全員で関わり、教育を推進する。

社会との連携

目標:公立の諸学校や保健・福祉・医療機関との連携を拡充し、社会貢献する機会を増やす。

具体的方策

- 1) 発達障害シンポジウム・公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて、障害についての啓発を図るとともに、特別な支援が必要な子どもについて助言を行う。
- 2) 本専攻が事務局である「徳島特別支援教育事例検討会」を開催して、教育・医療・福祉などの関係機関との連携に務める。

## 2. 点検・評価

専攻教員全員で求めに応じ協力し、附属特別支援学校との教育・研究面での連携を強化させた。特別支援学校に限定することなく、附属学校からの要請に応じて、教育現場の特別支援教育ニーズに、協力した。

具体的方策

- 1) 附属特別支援学校の研究テーマについて、専攻教員が関わり、協働研究を推進した。
- 2) 教育実習などの附属特別支援学校の教育について、専攻教員全員で関わり、教育を推進した。学校と大学で数回連絡会を持ち、実習についての情報交換と意見交換を行い、スムーズな協力関係を築いた。
- 3) 附属学校(特別支援・中学校)からの求めに応じて、発達障害関係の特別支援教育について助言指導、校内講習会の講師を務めるなど教員の資質の向上に努めた。

社会との連携

公立の諸学校や保健・福祉・医療機関との連携を拡充し、社会貢献する機会を増加させ、地域社会への啓発と社会貢献について実績を上げてきた。

具体的方策

- 1) 発達障害シンポジウム・公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて、障害についての啓発を図るとともに、特別な支援が必要な子どもについて助言を行った。
- 2) 本専攻が事務局である「徳島特別支援教育事例検討会」を開催して、教育・医療・福祉などの関係機関との連携に努めた。
- 3) 県教育委員会、県障害福祉課と連携し、特別支援教育の普及・啓発に努めた。
- 4) 認定講習会において、特別支援教育の講師を務め、人材養成に協力した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 1) 本専攻の教員(女性)が、基礎臨床系の副部長や教育研究評議会の委員を務めた。このことは男女共同参画的意義を持ち、本学の運営に貢献をした。
- 2) 優秀教育制度の教育部門に優秀教員として、本専攻から1名選ばれた。
- 3) 本専攻では、特別支援教育免許の取得に関して、専攻教員が一体となって取り組み、専修のみならず全学部生・院生の免許取得について、大きく貢献した。
- 4) 地域貢献として、本専攻では、平成17年から徳島県と共催にて「発達障害シンポジウム」「従事者研修会」などを開催し、啓発、資質の向上に貢献した。
- 5) 教員採用に関して、特別支援教育ニーズの高まりを受けて、採用率向上に貢献した。